

ハウレーカ!

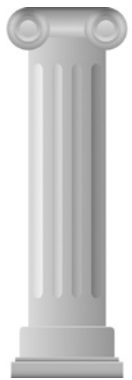
なるほど、そうか

第46回

GCSAAと資格制度

— 知っているようですが、改めて —

喜田任紀



GCSAAの資格制度

昨年、4月号と5月号で英国のグリーンキーパー団体BIGGAの資格制度について紹介しました。今回は、米国のGCSA A (Golf Course Superintendent Association of America) について紹介します。実は、ある人に聞かれ、知っているつもりでしたが、アレっ?と考えてしまいました。GCSAAの会員資格とGCSの資格について上手く説明できなかったのです。で、改めて調べ直しました。



ところで、私が愚痴ることではないのですが、ご存じのように日本のグリーンキーパーの全国組織、日本芝草管理技術者会(旧日本グリーンキーパーズ協会)は2015年に解散消滅してしまいました。以来10年、話題にはなっても、未だに再結成の動きは見られません。BIGGAの紹介をしたのも私の願望の現われです。今回の記事も同じ。いつになったら…。

なぜスープリなのか

GCSAAは、コース管理の責任者を、グリーンキーパーでなくてスーパインテリジェント(以下スープリと表記します)と呼称しています。日本も芝草管理技術者という名称が使われますが、一般的にはグリーンキーパーです、GCSAAが「Green

Keeper」から「Superintendent」に名称を変更した理由は、その職務内容が進化していることと専門性が向上していることからコース全体を管理するという職務を反映させて監督(者)、管理

者、取締役、部長、(管理)局長などを意味する「Superintendent」としたわけです。米国でも、「greenkeeper」は、ゴルフコースの芝生の手入れを主な業務とする職種を指していますが、時代とともにその役割は広がっており、コース全体の管理や環境保護、経営管理など多岐にわたる職務をより正確に表現し、専門職としての地位を強調するために採用されました。この変更により、ゴルフコース管理者の専門性と責任の重さがより明確に認識されるようになったというわけです。

日本の芝草管理技術者とニュアンスが違うのですが、実は英国の資格制度でも説明しましたが技術資格と職能資格の違いはGCSAAの制度を知るとよくわかります。

この説明に入る前にGCSAAのこれまでの歴史を簡単に表にしました。

昭和元年に設立され、来年は100周年を迎えます。年表でも分かるようにグリーンキーパー

GCSAAの年譜

1926年	前身の「National Association of Greenkeepers of America」が、オハイオ州トレドのシルバニアカントリークラブで設立される
1927年	シカゴのホテルシャーマンで最初の年次総会を開催
1933年	金融危機により、最初の出版物「The National Greenkeeper」の発行が停止されました。
1938年	組織名を「Greenkeeping Superintendents Association」に変更
1951年	組織名を「Golf Course Superintendents Association of America」に変更
1966年	年次総会で併催される展示会場スペースが4.5エーカーに拡大
1979年	雑誌「Golf Course Management」を発行
1980年	会員数が4,000人を超える
2025年	現在、GCSAAは20,000人以上の会員を擁し、会員は78カ国以上で活動中

ーでスタートして、最初の名称変更で greenkeeping-superintendent に、そして greenkeeping がこれにて現在の superintendent になっています。GCSAA 会員の自覚の現われといったところですね。私が40年ほど前にGCSAAの総会を取材した時に声をかけてくれたスープリは会員数を1万人以上（1万4000人と聞いたような…）いると言っていたと記憶していますが、今や世界78カ国で会員数は2万人を超えています。

資格と制度のシステム化

欧米の思考で気づくことはシステム作りが上手だということです。GCSAAもBIGGAも、職能集団ですからギルド※みたいなものです。日本にも江戸期以前に「座」というギルドに似た組織があつたそうですが、匠は居てもその知見を広く共有する組織化に日本人は不得意なのかと思います。英米のコース管理者は資格と組織化を両立させており、GCSAAの資格

制度は2本立てです。

GCSAAの資格制度には、GCSAAメンバー資格とCGCS (Certified Golf Course Superintendent、認定ゴルフコース管理者) 資格があります。これら二つの資格を整理すると次のようになります。

●GCSAAメンバー資格

GCSAAのメンバー資格にはクラスA、B、Cがあります。クラスAメンバーは、GCS

AAの中で最も高いレベルのメンバーであり、ゴルフコースのスープリとして少なくとも3年間の経験を持ち、現在もその職

務に従事している必要があります。この経験に加えて、GCSAAが定めた教育課程の修了、継続教育、および有効な農業ライセンシス証明が必要です。

クラスBメンバーは、クラスAメンバーに向けて必要な経験や教育ポイントを積み重ねている段階の人たちですが、スープリとして3年未満の経験を持ち、現在もその職務に従事している必要があります。

クラスCメンバーは、スープリのアシスタントとして現在従事している必要があります。クラスCメンバーは、GCSAA

※ギルドとは：ギルド (guild) は、中世ヨーロッパで発展した職業団体や商業組合を指します。ギルドは、特定の職業や業種に従事する人々が集まり、共通の利益を追求し、メンバーの権利や利益を保護するための組織です。以下はギルドの主な特徴です。

- ・職業訓練：ギルドは、見習い制度を通じて新しい職人を訓練し、技術や知識を伝承しました。
- ・品質管理：ギルドは、製品の品質を管理し、一定の基準を維持することで、消費者の信頼を得ることを目指しました。
- ・価格調整：ギルドは、商品の価格を調整し、公正な取引を促進しました。
- ・社会的支援：社会保障制度が整っていない中世において、メンバーやその家族に対する社会的支援を提供し、病気や事故などの際に助け合いました。

ギルドは、地域社会や経済活動において重要な役割を果たし、メンバー間の協力と支援を通じて、共通の目標を達成するために活動していました。

の総会での投票や役職に就くことはできません。これがGCSSAAのメンバーとしての資格になります。

●CGCS資格

まず、CGCS資格は、クラスAメンバーが取得できるGCSSAAの認定資格です。CGCS資格を取得するためには、ゴルフコースの管理経験（年数）やコミュニケーションおよびリーダーシップなどのスキルが求められます。そして必要な知識や技術についての試験に合格する必要があります。CGCS資格は、GCSSAAがゴルフコース管理の専門知識と技術を持つことを証明する資格というわけです。だからゴルフ業界内で高い評価を受けているといえます。このように、クラスAメンバー資格は、CGCS資格を取得するための前提条件です。

またCGCS資格は、ゴルフコース管理者としての専門知識と技術を証明するものであり、日本のような特定のランク付けはありません。CGCS資格を

取得することで、業界内での高い評価を受けることになります。

CGCS資格は5年ごとに更新が必要であり、更新には日本の税理士試験のような科目合格制が採用された継続教育単位（CEU）や再試験、継続的な専門能力開発（CPD）などが求められます。こうした継続教育が求められていることからGCSSAAのメンバーシップが重要な意味を持つてきます。というか、これが資格と制度維持の核心ですね。

ところで、GCSSAAのメンバーであることをやめたらどうなるか？ クラスAであることが前提条件の資格ですから、メンバーでなくなるとCGCS資格の更新や維持ができなくなります。このためGCSSAAにはリタイアメンバーという資格があります。年会費（減額される）などの負担はありますがCGCS資格は維持できます。

CGCS教育プログラム

CGCS資格を得るためにど

のような教育プログラムが設けられているのでしょうか。以下はその概要です。

1. CGCSプログラム

- ・ゴルフコースのアグロノミー（農学）…土壌管理、芝生の健康管理、害虫管理など
- ・ビジネス管理…財務管理、人事管理、マーケティング戦略など

- ・リーダーシップとコミュニケーション…効果的なコミュニケーションスキル、リーダーシップ能力開発など

- ・環境保護…環境に配慮したゴルフコース管理、持続可能な実践など

別途用意されているサブキーパー向けのAssistant Superintendent Certificate Seriesは、基礎的な内容で組まれています。

2. Equipment Management Certificate Program

- ・機器のメンテナンス…ゴルフコースで使用される機器の保守と修理

- ・機器の操作…効果的な機器の操作方法と安全対策

- ・機器の管理…機器の購入、在庫管理、コスト管理など

3. I d M (Integrated Pest Management) Exam

- ・害虫管理…害虫の識別と管理方法

- ・環境保護…環境に配慮した害虫管理技術

- ・リスク評価…害虫管理のリスク評価と対策

4. 外部教育プログラム

- ・My Learning Hub…オンデマンドおよびライブのウェビナーを通じて、必要な教育の提供

- ・外部教育プログラム…外部の教育プログラムに参加することで、GCSSAAの教育ポイントを取得できます。

教育ポイントについて

教育ポイントは、GCSSAAの資格維持や資格のステップアップに必要な要件を満たすための継続教育（CPR）ポイントです。例えば、クラスAメンバーやCGCS資格を維持するためには、次のような教育ポイントが必要です。クラスAメンバ

ーは、

・教育ポイント・クラスAメンバー資格を維持するためには、20ポイント以上の教育ポイントが必要で、教育ポイントは、セミナー、ウェビナー、自己学習コースなどの教育機会を通じて取得します。1教育単位時間(1時間)あたり0・1ポイントが付与されます。

・サービスポイント・サービスポイントはクラスAメンバーの更新に使用できません。どのようなポイントかという点、記事の執筆やAudubon Cooperativeプログラム(環境保護)への参加、CPRおよび応急処置のトレーニングなどが含まれます。

クラスB資格のメンバーがクラスAに移行するためには、この教育ポイントが必要です。

クラスCは、教育ポイントの具体的な要件はありませんが、キャリアアップには教育プログラムへの参加が推奨されています。

サービスポイントについてももう少し詳しく解説すると、GC

SA Aメンバーがゴルフコース管理の分野での活動や貢献を通じて取得できるポイントです。これらのポイントは、資格の維持や昇進に役立ち、以下のような活動を通じて取得できます。

1. 記事の執筆・専門誌やニュースレターに記事を執筆することでポイントを取得できます。
2. 講演やプレゼンテーション・業界イベントやセミナーで講演やプレゼンテーションを行うことでポイントを取得できます。記事の執筆や講演に積極的に取り組むことは、本人の知識や情報の整理、理解の深化といった点で有効であり、積極性を得るためにも必要です(あまり言えたことではないと自覚はしています)。

3. コミュニティサービス・地域社会でのボランティア活動や環境保護活動に参加することでポイントを取得できます。
4. プロフェッショナルな活動

GC S A Aの委員会やタスクフォースに参加することでポイントを取得できます。

5. 教育プログラムの参加・継続教育プログラムやトレーニングセッションに参加することでポイントを取得できます。

こうして取得したサービスポイントは、GC S A Aの資格維持や昇進に必要な要件を満たすために使用でき、クラスA資格やGC S A A資格を維持するためには、一定のサービスポイントが必要になります。

ところで、ここまでの内容で疑問を持たれませんか? GC S A Aはスーパージンテントの団体ですが、スーパージンテントという資格認定はしていません。認定は、各ゴルフ施設会社(経営者や管理者)によって行われます。GC S A Aは、スーパージンテントやアシスタントスーパージンテントの教育や資格認定を提供し、彼らの専門知識とスキルを向上させるためのサポートを行っている団体ということです。

この記事が掲載されている頃には2025年のGC S A Aの年次総会と展示会は終わって

ますが、同時にセミナーも開催されました。受講すると教育ポイントが得られるわけです。すべての講座の予約欄は発表と同時埋まっています。それだけ必要とされる教育内容であり制度だと思えます。それと、ネットワークの重要性を指摘しています。GC S A Aは、業界内のネットワークを強化し、他のプロフェッショナルとの関係構築とこれにより、最新の技術や知識を得ることができるとしています。

思うに、GC S A Aのように資格制度も第三者が与えるだけのもではなくて、当事者である芝草管理者が関与することで実効性のある制度になるはずで、現在の芝草管理技術者資格は、発足当初は日本芝草管理技術者が関与していましたが、芝草管理者の団体は雲散霧消状態です。現状制度の実効面での課題もありますが、改めてゴルフ業界全体の問題として捉えなおす必要があると思えます。